

2026年1月28日

一般社団法人米国医療機器・IVD工業会(AMDD)

AMDD、2026年年頭記者会見 開催 活動方針を発表

一般社団法人米国医療機器・IVD 工業会(AMDD:American Medical Devices and Diagnostics Manufacturers' Association、所在地:東京都港区、会長:玉井孝直)は、2026年1月27日に年頭記者会見を開催し、本年の活動方針について発表しました。記者会見では、日本の医療を取り巻く課題を踏まえ、AMDD が目指す「価値に基づく医療(バリューベース・ヘルスケア)」の実現によって期待される、患者さんを中心とした医療エコシステムへの価値を紹介するとともに、2026年の活動方針について説明しました。

世界でも類を見ない速さで高齢化が進む日本において、医療をめぐる課題は一層複雑化しています。こうした課題に対し、メドテック・イノベーションが果たす役割は、日本の患者さんの価値向上につながるだけでなく、日本発の知見として世界が注目しています。AMDD は、バリューベース・ヘルスケアの実現を通じて、価値あるイノベーションを医療現場に届け、患者さんに適切な選択肢を提供することで、質の高い医療と社会保障の持続可能な両立を医療エコシステム全体で目指します。



AMDD 活動方針発表
(会長 玉井孝直)



パネルディスカッション
(左より 小野崎耕平氏、大幸宏幸先生、玉井孝直)



AMDD: 左より、専務理事 山崎聰、副会長 河野行成、会長 玉井孝直、常務理事 笠原真吾

記者会見の後半では、一般社団法人サステナヘルス代表理事であり、聖路加国際大学公衆衛生大学院 客員教授の小野崎耕平氏と、国立がん研究センター中央病院 食道外科 科長の大幸宏幸先生を迎えて、「メドテック・イノベーションと情報の価値～患者体験と臨床の視点から～」と題したパネルディスカッションを行いました。

2025年にご自身が患者として治療を受けられた小野崎氏が、その経験を通じて実感したメドテック・イノベーションについて、執刀医である大幸先生、ならびにメドテック・イノベーションを提供する AMDD の玉井会長と共に意見を交わしました。

小野崎氏は、ヘルスリテラシー向上の重要性とメディアの影響力を実感したと述べられました。低侵襲治療により前向きな気持ちを保てたことや、2週間での退院・早期復帰を紹介。また、“がんをみる4つのレンズ”として、「ビジネス・サービス」、「医療政策・公衆衛生」、「臨床・研究」、そして「患者・家族」があるとし、今回患者として学んだ経験を共有いたぐとともに、患者からみた治療へ向けての優先順位、術前の運動、そして生命力を大切にすべきと強調されました。

大幸先生からは、早期受診へつながる「実際に行動を起こす力」の重要性と、医療格差をなくすための制度整備、そして市民への継続的な啓発活動の必要性を強調されました。さらに、産学官の連携による医療基盤づくりの推進を提言するとともに、手術を“患者の人生を次のステージへつなぐプロセス”と捉える自身の信念を紹介し、

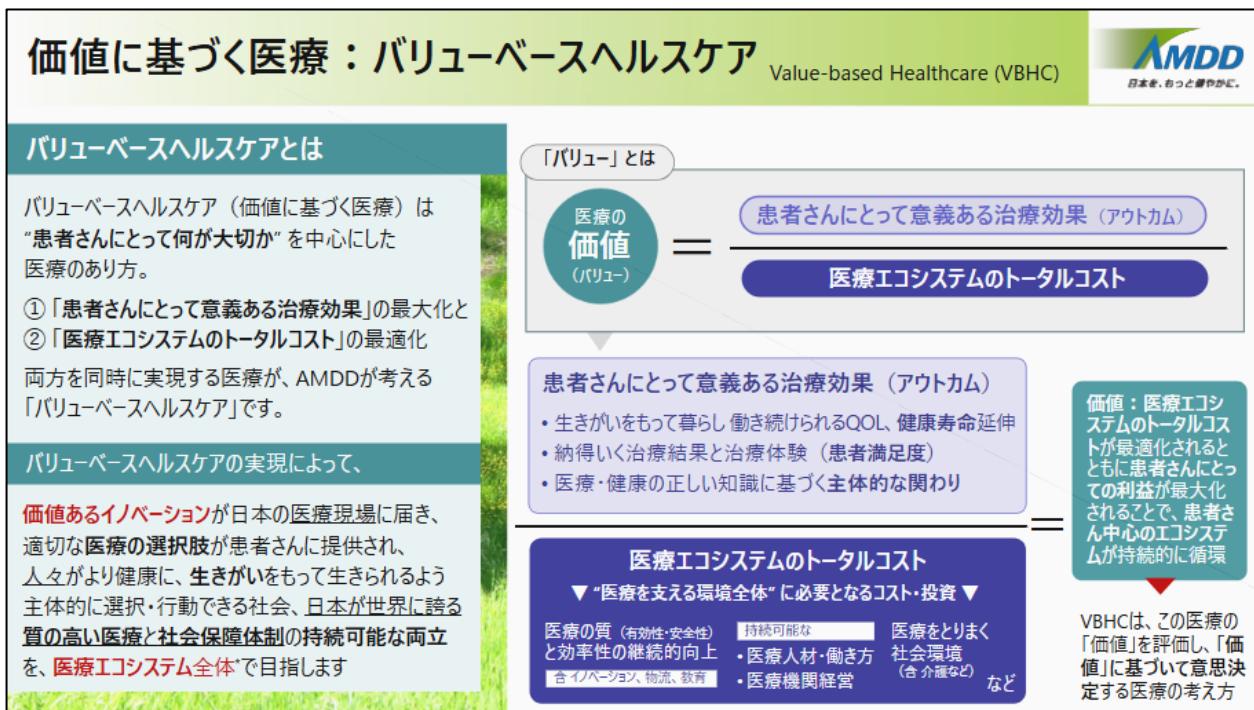
患者さんと医療従事者双方の QOL 向上に寄与するメドテックの発展にも期待を寄せられました。



パネルディスカッション(左より 小野崎氏、大幸先生、玉井)

■価値に基づく医療:バリューベース・ヘルスケアに基づき AMDD が目指す環境

バリューベース・ヘルスケアは、患者さんにとって何が最も大切なことを起点とする医療の考え方であり、「患者さんにとって意義ある治療効果の最大化」と「医療エコシステムのトータルコストの最適化」の両立を目指すものです。AMDD はこのバリューベース・ヘルスケアの取り組みとして、「患者さんに治療選択肢が適切に提示される環境」「最適な医療技術の選択・提供につながる環境」「価値の高い医療技術を実用化できる環境」の実現を目指しています。



日本の医療の課題とAMDDが目指す未来への選択

日本の医療をとりまく課題

- 超高齢化に伴う医療ニーズ増大
- 治療選択に必要な環境整備
(情報提供のあり方、人々のヘルスリテラシー)
- 病院経営難
- 医療人材不足
(働き方改革、外科医減少)
- 地域・診療科偏在
- 技術活用に向けた環境整備
- デバイスロス
[イノベーションの日本への未導入]
"Japan Passing"の可能性
- 財政制約下の医療・社会保障費増
- 低成長の継続、相対的国力低下



バリューベースヘルスケアに基づき AMDDが目指す環境

- 患者さんに選択肢が適切に提示される環境
- 最適な医療技術**の選択・提供につながる環境
 - デジタル化の加速
 - 診療報酬におけるアウトカム評価の推進
- 値値の高い医療技術*を実用化できる環境
 - 医療技術の算定方式の見直し
— "価値"に基づく算定方式へ
 - 流通の効率化と安定供給
 - 薬事制度の合理化

一般社団法人 米国医療機器・IVD工業会
American Medical Devices and Diagnostics Manufacturers' Association

■AMDD の活動・注目トピックの方向性

バリューベース・ヘルスケア実現への取り組みとして、2026年、AMDDは以下の3つの活動領域に注力してまいります。

1. メドテック・イノベーションを医療現場に届ける活動

日本で必要なメドテック(医療機器・IVDソリューション)のイノベーションを世界から導入・安定供給するために、2028年度診療報酬改定に向けた提言および継続的な政策提言やデバイスラグ・ロスの解消、国際協調推進に向けて取り組む。

2. メドテックの価値を伝える活動

メドテックの意義についての認知向上および患者さんの治療選択肢へのアクセスを後押しするため、人々のヘルスリテラシー向上に向けた取り組みや広告・情報提供のあり方を検討し、幅広いチャネルを活用し、対外発信を強化していく。

3. デジタルヘルス推進に向けた活動

医師の働き方改革やべき地医療など、社会課題の解決のためのデジタルツール活用やデータ利活用のあり方の検討、デジタルヘルス領域での多様な検討への参画・情報収集とデジタルトランスフォーメーションの政策推進・提言を行う。

■AMDD の組織理念

ミッション

日本を、もっと健やかに。

大切な人びとの健やかな日々のために、価値あるメディカルテクノロジーと情報をお届けします。

私たちの思い

人生100年時代の日本において、より健康に、幸せに、生きがいをもって生きることができる未来をともにつくるー。

こうした未来は、私たちの“選択”の上に築かれるものだと信じています。

価値あるイノベーションが日本の医療現場に届き、適切な医療の選択肢を手にできる社会。

人々がより健康で幸せな人生のために主体的に選択し、行動できる社会。

こうした社会の実現に向け、私たちAMDDは、多様な人や組織とのパートナーシップを大切にしながら、

ヘルスケアの未来を形作るメディカルテクノロジーのイノベーションをリードし、

質の高い医療と持続的な社会保障体制が両立する、より健やかで明るい社会づくりに参画していきます。

一般社団法人米国医療機器・IVD 工業会(AMDD)について

主として米国に本社がある、または米国でビジネスを行う医療機器や体外診断用医薬品(IVD)を扱っている企業によって構成される工業会。日本の医療現場と患者さんのニーズに応え、最新の医療技術(治療技術および診断技術)や情報を届けし日本を健やかにしていくことを目指しています。当工業会の会員企業は、製品の輸入販売を行うだけでなく、日本での研究開発や製造、また日本で開発製造された部品を製品に活用するなど、日本の医療機器産業と密接な協力関係を持っています。

詳しくは AMDD ホームページ <https://amdd.jp/>をご覧ください。

名 称: 一般社団法人米国医療機器・IVD 工業会

所在地(事務局): 〒105-7105 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター5階

代表者: 会長 玉井孝直

AMDD ホームページ: <https://amdd.jp/>

【報道関係者 お問い合わせ先】

一般社団法人 米国医療機器・IVD 工業会(AMDD) 記者会見事務局

株式会社ココノツツ TEL: 03-5212-4888

担当: 五十嵐、石山

E-Mail: mediaseminar@cocoknots.co.jp